

## 2 遊びでつながる

### 事例 5

4歳児 11月(在日1ヶ月)

「助けて!」「待ってて!」  
～参加しやすい遊びから人と触れ合う楽しさを～

こんなきっかけ  
みつけたよ!

10月に来日したA児は、日本語が全く分からないまま入園してきた。毎日、製作コーナーで、一人で絵を描いたり空き箱などの材料を使い、思い付いたものを作ったりして過ごしており、日本語はもちろん母語を発することもほとんどなかった。11月になっても、好きな遊びをする時間は一人で過ごすことが多かった。ただ、昼食前にロンドン橋等の遊び方が分かりやすいゲーム遊びやわらべ歌遊び等をしていると、最初は保育室の隅で様子を見ていたが、参加するようになった。

A児には、“やってみたい”と心を動かして遊ぶ中で、保育者や周りの友達と触れ合う心地よさや楽しさを感じてほしい。



こうしたよ!

鬼ごっこの「どろけい」で遊ぶことが好きな子供たち。園庭で、数人の子供と保育者とでどろけいが始まると、A児は鬼ごっこをしている様子が見える外の階段に座った。



保育者は「タッチ。牢屋(ろうや)だね」「助けて」などと動きに合わせた身振りと簡単なワンフレーズの言葉をつけながら遊び、楽しい雰囲気をつくるようにした。

数日後、保育者が誘いかけると、A児はどろけいに参加した。保育者は、牢屋からA児に「助けて」と叫んだり、捕まって牢屋にいるA児に、「Aちゃん、待ってて。今行くよ」と名前を呼んで助けに行ったりして一緒に遊んだ。

遊び方が見て分かりやすい鬼ごっこを取り入れたことで、A児は、興味を示しました。



A児は、保育者や友達を楽しそうに遊んでいる様子を見るうちに遊び方が分かり、心が動いてきたようでした。



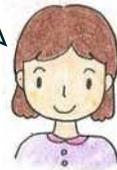
次第にA児は自分からどろけいに参加するようになった。

A児は、警察に捕まり牢屋に入ると「助けて！」と周りの友達に助けを求めたり、牢屋に入った友達が「助けて！」と叫ぶと、陣地から「待ってて！」と応えて助けに行ったりするようになった。同じチームの友達と目を合わせて、にっこりしたり、「ありがとう」と声を掛け合ったりし、友達と簡単な言葉

(日本語)を交わし合いながら、一緒に遊ぶことを楽しむようになった。



A児とクラスの友達が、一緒に遊ぶ仲間として互いの存在を意識できるよう、保育者は関わってきました。そうすることで、A児は、簡単な言葉で応答しながらクラスの友達と触れ合って遊ぶことを楽しむようになりました。



**ここが大事!**

見て分かりやすい遊びは、参加しやすく  
人との自然な触れ合いが生まれます

言葉が全く分からない場で生活することは、不安がいっぱいです。生活面だけでなく遊びも視覚的に分かりやすい環境づくりをして、安心して取り組めるようにすることが大切です。遊びを通して、人との自然なコミュニケーションが生まれるようにして、つながりの心地よさを感じられるようにしていきましょう。

## コラム 遊びのアイデア(外国じゃんけん)

外国籍等の子供も見て分かりやすい遊びの一つとして、「じゃんけん」があります。当該幼児の母語でのじゃんけんの遊び方を取り入れてみるのも、つながるきっかけとなります。日本の子供も馴染みがあるので、取り入れやすい遊びの一つです。



【台湾語バージョン】



【英語バージョン】

掛け声は、  
「Rock Paper Scissors  
1 2 3!」

